

「いこいと学びの交流テラス」内

岩国市科学センター事業計画

令和6年3月策定

## 第1 はじめに

岩国市科学センターは昭和35年の開館以来、科学教室や科学クラブ、科学の祭典やスズムシの無料配布など多彩な事業活動を継続し、子供たちの科学教育を支援する場所として長く親しまれてきました。

移転後における新科学センターでは、新たな核となる事業として、小中学校と連携し、学習指導要領に基づく理科授業の実施、学習支援を行います。また、子供から大人まで幅広い世代が楽しく学べる科学館として様々な自主事業を展開します。

新科学センターは、市民の科学教育の中心施設として、これまで培われてきた活動の伝統と成果を継続するとともに、黒磯地区の自然に囲まれた豊かな環境と、福祉と科学が融合する複合施設であるという特徴を最大限に活かし、さらなる発展を目指します。

## 第2 計画の概要

### 1 計画策定の経緯及び位置づけ

本計画は、令和8年度に供用開始される複合施設「いこいと学びの交流テラス」において、新科学センターで実施する事業の基礎となる事項を定めたものです。

岩国市は現在、平成30年3月に策定された「福祉・交流まちづくり構想」に基づき、黒磯地区の旧岩国医療センター跡地に、福祉・科学学習施設を核とした複合施設の整備を進めています。

岩国市科学センターでは、令和元年度に当該施設への移転が決定したことを受け、学識経験者、教職員、関係団体等を委員として「岩国市科学センター整備検討委員会（「以下「整備検討委員会」）」を立ち上げました。整備検討委員会は令和4年12月に「新科学センターにおける展示・運営に関する基本方針」に係る検討結果を提言書として取りまとめ、市長、教育長へ提出しました。この提言書を踏まえ、令和5年3月に「岩国市教育大綱 岩国市教育基本計画」で新科学センターにおける基本方針が示されました。

本計画は整備検討委員会から提出された提言書の内容を軸に「岩国市教育大綱 岩国市教育基本計画」を上位計画として策定します。

新科学センターでは本計画に基づいて、計画的かつ効果的な事業運営に取り組んでいきます。

### 2 計画期間

本計画の期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。令和8年度から令和9年度の進捗状況を令和10年度に中間評価し、必要に応じて計画の見直しを行い、後期2か年へ引き継ぎます。なお、期間中に上位計画の大幅な変更や社会情勢の変化に対応する必要性が生じた場合、適宜計画を見直す可能性があります。

### 第3 基本方針と事業体系

新科学センターでは、「岩国市教育大綱 岩国市教育基本計画」の基本方針に基づき、事業体系を以下のように定めます。

#### 新たな科学センターの5つの基本方針

- (1) 指導員と共に創り出す、科学好き少年・少女を育み支える学びの場
- (2) 地元ゆかりの科学者・技術の情報発信
- (3) 豊かな自然を活かし、全身で遊んで学べるわくわくする科学館
- (4) 自然災害時に自ら考え、行動できる市民を育てる防災科学教育
- (5) 岩国ならではの魅力の追求による、個性と魅力あふれる科学館づくり

岩国市教育基本計画より

#### 事業体系

1	学校連携事業	学校とともに「理科好きの子供」を育む (1) 理科学習支援 (2) 理科教育の振興 (3) 学校等の利用
2	科学体験事業	多彩な事業で「科学を楽しむ心」を育む (1) 科学体験事業開催 (2) 科学クラブ等の活用支援
3	岩国の科学と防災学習事業	郷土を科学し「生き抜く力」を育む (1) 岩国の自然と防災学習 (2) 岩国ゆかりの科学者や科学技術を紹介
4	基本活動	次世代に継承できる科学センターの基礎を作る (1) 連携・ネットワークの構築 (2) 教材研究・開発、収蔵資料の管理 (3) 情報発信 (4) 職員の育成、職場環境の整備

## 1 学校連携事業

小学校、中学校およびその他教育施設（以下学校等）と連携し、児童生徒が学校等で学習する体系的な知識と新科学センターが実施する専門的な科学体験の両方を通して、理科に対する深い学びを提供します。

幼稚園、保育園およびその他保育施設等の活用を支援し、将来の理科好きな少年・少女を育みます。

### (1) 学習指導要領に基づく理科学習支援

#### ① 理科学習利用

授業の一環として来館する学校等の児童生徒に対して、理科学習の機会を提供します。学習指導要領に基づく理科学習（授業）のほか、館内施設（展示、資料・標本、自然交流施設）を活用し、科学センターだからこそできる充実した理科学習体験を提供します。

#### ② 教材貸出

学校等では準備が困難な教材や実験キット等を授業のために貸し出します。

#### ③ 出前授業

学校等を訪問して理科学習の機会を提供します。

### (2) 発展的な理科教育の振興

#### ① 理科学習の成果に対する顕彰活動

学校等と連携し科学振興展覧会を実施するとともに岩国市独自の顕彰活動を通じて、理科好きな児童生徒が学習の成果を公に発表する機会を設けます。

#### ② 理科教育に関する研究会や研修会の支援

理科教育に携わる教職員等の研究会や研修会を支援します。

### (3) その他学校等の利用

#### ① 遠足・校外学習利用

学校等や保育施設等の遠足や校外学習、社会見学や職場体験での来館を受け入れます。見学や体験を通して児童生徒が楽しく施設を活用することで、将来の前向きな理科学習につながるよう支援します。

## 2 科学体験事業

新科学センターの設備を活用して、幅広い世代を対象にした科学体験事業を開催します。子供から大人まで、それぞれの年代が科学への好奇心を満たし、また世代の垣根を越えて交流し、より深い学びを得られる行事を行います。幅広い世代の市民が気軽に、何度も足を運びたくなる施設を目指します。

### (1) 科学体験のための多彩な自主事業開催

屋内外の施設を活用し、さまざまな形態で科学について学べる事業を開催します。

#### ① 科学教室、サイエンスショー

実用性の高い実験室や工作室を利用して、児童生徒を中心にさまざまな科学実験や科学工作を体験する科学教室や、幅広い世代が科学の面白さを体感できるサイエンスショーを実施します。

#### ② 展示

常設展示室を幅広い世代が、いつでも楽しく科学を学べる空間とします。体験型科学展示やVR（仮想現実）などを活用した科学展示を配置します。

また、特別企画展を開催し、市民にさまざまな分野の科学情報に触れる機会を提供します。

#### ③ 自然体験観察学習・天体観測会

黒磯地区の豊かな自然環境やビオトープを活用して自然体験観察学習を実施します。また、街明かりの影響の少ない特性を活かし、天体観測テラスや展望デッキで天体観測会を実施します。

#### ④ その他行事

複合施設内のさまざまな場所で、講演会、青少年のための科学の祭典、スズムシ配布会など旧科学センターからの継続事業、また、新科学センターならではの新しい取り組みを行います。

### (2) 科学クラブや個人の施設活用支援

#### ① 科学クラブ

専門知識と経験を持つ指導員がそれぞれの専門分野のクラブを組織し、科学に興味を持つ子供たちの深い学びと体験をサポートします。

#### ② 個人利用のサポート

ふれあい交流施設で遊べる科学おもちゃを貸し出し、親子連れや子供たちが科学と遊びを結びつけるきっかけを提供します。また、自然交流施設やビオトープに生息する動植物を観察できるよう貸出用具を整備し、自ら調べて学習できる環境を作ります。

### 3 岩国の科学と防災学習事業

山岳地から峡谷、河川、島嶼部、沿岸部と、豊かに広がる岩国市内の自然の特徴と、それを活用してきた産業史について学ぶ一方、身近な自然が人々にもたらした災害と復興の歴史、今後考えられる災害とそれらへの対応などについて学習します。

災害が発生するメカニズムなどを学ぶことによって、将来、災害に直面しても科学の視点から正しい判断で生き抜く力を育みます。

また、岩国ゆかりの技術者や研究者、産業と科学技術の紹介し、将来科学産業に関わる子供たちの夢に繋がります。

#### (1) 岩国の自然と災害・防災に関する学習

##### ① 郷土の自然学習

錦川や瀬戸内海、羅漢山や寂地山など、水と緑に恵まれた岩国の自然環境について紹介し、幅広い世代が郷土の自然について学ぶ機会を提供します。

##### ② 災害学習および防災学習

さまざまな自然災害について、科学的視点から災害のメカニズムを学習します。

また、岩国市内を過去に襲った大規模な災害と復興の歩みについて知り、今後身近に起こりうる災害と、実際に直面した際の対処方法について学ぶ機会を提供します。

#### (2) 岩国ゆかりの科学者、科学技術と産業に関する学習

##### ① 岩国ゆかりの科学者の紹介

日本の電気工学黎明期に活躍し「日本の電気の父」と呼ばれる藤岡市助氏（科学技術者・実業家）など、岩国ゆかりの科学者や技術者について紹介します。

##### ② 科学技術と産業に関する学習

岩国市内の自然の恵みを利用した産業と技術の歴史や現在、岩国市で活動している企業で活用されている科学技術について紹介し、自分たちの暮らしを支えている科学技術を身近に感じる機会を提供します。

## 4 基本活動

持続可能な科学センターの運営を目指します。

### (1) 連携・ネットワークの構築

学校をはじめとした教育機関、企業、科学クラブ等との連携をより高め、発展的な科学振興事業の開催を目指します。

また、科学センター事業に関わる市民の裾野を広げるため、多くの市民が参画・連携できるようボランティアの受け入れを行います。

### (2) 教材研究、開発、収蔵資料の管理

各事業を実施するために必要な教材研究・開発・収集業務を行います。

また、各事業に活用するために、資料の収蔵環境を適切に管理します。

### (3) 情報発信

新科学センターで実施する科学教室・講演会、科学情報等について、広報誌・インターネット・SNS等を活用した積極的な情報発信を行います。

### (4) 職員の育成・職場環境の整備

より良い科学センター事業の展開のため職員の技術向上を支援します。

すべての職員が働きやすい環境づくりと科学センターとして求められる多様な要望に応えられる事業を両立させるため、業務のデジタル化、マニュアルの整備を含めた働き方改革を行います。また、職員の研修や勉強会への参加を計画的に実施し人材育成に努めることにより、持続可能な施設運営を目指します。

## 第4 岩国市マイクロ生物館との連携

### 1 岩国市マイクロ生物館の概要

岩国市マイクロ生物館は平成17年、潮風公園にある由宇総合交流ターミナルに国内初のマイクロ生物（顕微鏡下の生物）を主役とした施設として開館しました。

瀬戸内海を臨む海水浴場に面する立地を活かし、マイクロ生物をテーマにした展示・自然体験学習の提供や、学校だけでなく専門的な水産業・水産学の教育現場でも活用される書籍・教材の開発、学校への出前授業を実施するなど、さまざまな教育機関に貢献しており、年間約3万人が訪れる人気の高い施設となっています。

### 2 岩国市マイクロ生物館施設の運用について

岩国市マイクロ生物館は、海辺に隣接する恵まれた環境を有する自然学習施設、また、潮風公園と一体となり、由宇地区の賑わいを生む観光施設としての2つの特色を有しています。くわえて、大学や研究機関などと協力関係を構築しており、講演会等への講師派遣や生体標本の提供、市内イベントへの外部講師の招聘などを実施しています。これらを踏まえ、岩国市マイクロ生物館は、その名称や学習施設としての機能を当面の間継続し、その特色や他機関との関係性の維持に努めていく方針です。

### 3 岩国市マイクロ生物館との連携について

岩国市マイクロ生物館は、マイクロ生物分野を専門に扱う施設としての強みを活かし、新科学センターで実施する学校連携事業において、理科学習の一環として、マイクロ生物に関する講座を学校へ提供していきます。

また、現状の岩国市マイクロ生物館の施設では、施設規模の関係上実施できていなかった大人数による講座などを新科学センターの実験室等で実施することにより、岩国市マイクロ生物館事業の強化を図ります。

## 第5 職員体制について

整備検討委員会からの提言書では、職員体制について、学術職員に関しては最低でも3名を配置することが必要であること、年間を通じて実施される多岐にわたる事業を計画的に運営するためには、学術職員の補佐等をする事務職員の増員が必要であることが示されています。

それを踏まえて適切な人員を配置し、計画的な科学センターの運営を目指します。

### 【提言書を踏まえた新科学センターの人員配置（案）】

役職・組織名	(合計)	正規職員		任期付職員	会計年度任用職員
		事務	専門		
館長	(1人)	1人			
次長(企画・管理兼務)	(1人)	1人			
企画・管理班	(5人)	2人			3人
理科学術班	(7人)		2人	3人	2人
理科学術(ミクロ生物館)	(3人)		1人		2人
合計	17人	4人	3人	3人	7人

## 第6 資料

【岩国市総合計画（令和5年3月策定）より】

基本目標5

「豊かな心を育む教育文化のまち」

施策目標5-1 子供たちが健やかに成長し、社会で活躍している

施策目標5-2 文化・芸術・文化財を身近に感じ、郷土を愛する市民が増えている

施策目標5-3 誰もが生涯学習・スポーツに親しめる環境が整備されている

施策目標5-4 多文化共生社会が実現している

【岩国市教育大綱 岩国市教育基本計画（令和5年3月策定）より】

○基本目標

「志高く 豊かな心と 生き抜く力を育む」

豊かな心 ・感動する心 ・感謝する心 ・思いやる心

生き抜く力 ・夢を描く力 ・困難に立ち向かう力 ・共に学びあう力

○科学センター、ミクロ生物館

「暮らしの中に「科学の花」を咲かせる科学館づくり」

科学センターでは、「科学の花」を咲かせるために「自然」と「道具」をキーワードに各種の事業を推進しています。また、ミクロ生物館では、顕微鏡下の生物が持つ特性を活用した全国唯一の科学教育事業や教材開発を学校教育や生涯学習の現場に提供しています。両館で培われてきたこれらの事業や実績を基礎に、今後も多くの市民が自然とふれあい、科学の楽しさを実感できる科学教育施設として事業に取り組みます。

また、令和8年度に供用開始予定の「黒磯地区いこいと学びの交流テラス」への施設移転に際し、新たな科学センターにおいては、「志高く、豊かな心と生き抜く力をはぐくむ」を基本目標とする岩国市教育基本計画に基づき、5つの基本方針を定めており、これに基づいた事業の実現に向けて必要となる施策を推進します。

施設概要 新たな科学センターの5つの基本方針

(1) 指導員と共に創り出す、科学好き少年・少女を育み支える学びの場

実用性の高い実験設備・室を活かし、科学センターの専門職員による充実した理科・環境教育プログラムの提供を行い、学校による積極的な活用を目指しま

す。また、学校教員や有志が活動する科学センター指導員制度の支援を継続し、生涯学習の場と子供が科学に触れる機会を提供します。

(2) 地元ゆかりの科学者・技術の情報発信

地元ゆかりの科学者の業績や企業の技術を紹介し、子供達が「地元企業で研究者になる」という将来の夢をつむぐ科学センターを目指します。

(3) 豊かな自然を活かし、全身で遊んで学べるわくわくする科学センター

瀬戸内海を一望でき、豊かな自然に囲まれた絶好のロケーションを活かし、自然豊かな公園やビオトープで植物や生物の観察を楽しみ、科学的視点に基づく観察力を養い、さまざまな人が全身で遊んで学べるわくわくする科学センターを目指します。

(4) 自然災害時に自ら考え、行動できる市民を育てる防災科学教育

世界的課題の異常気象の背景、宇宙からの目（気象衛星）による災害予測をダイナミックに学ぶとともに、岩国で起こりうる災害のメカニズムと、一人一人の命を守ることを体験で学ぶ、防災も学べる科学センターを目指します。

(5) 岩国ならではの魅力の追究による、個性と魅力あふれる科学センターづくり

錦川・瀬戸内海など「豊かな水環境」により発展してきた岩国市ならではの理科・環境・防災教育プログラムおよび展示作りや、全国初のミクロ生物館がこれまでに取り組んできた教育事業の強化・発展に取り組むことで、全国唯一の魅力や機能を有する科学センターづくりに努めます。